

輸血関連情報カードの現状と課題

◎平木 幹久¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、渡辺 琴乃¹⁾、西山 陽香¹⁾、福岡 星夜¹⁾、内田 有咲¹⁾、吉丸 希歩¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】当院は患者の安全かつ迅速な輸血療法実施を目的に特殊な血液型や不規則抗体保有患者、血液型不適合腎移植後患者などに対して輸血関連情報カード(以下、カード)を発行し配布している。今回、カード運用の現状を調査したので、今後の課題も含めて報告する。

【対象】運用を開始した2022年7月～2023年11月にカードを発行した155件の内訳(特殊な血液型や不規則抗体、血液型不適合腎移植後など)及びその配布状況について調査した。

【結果】カード発行した155件の内訳は特殊な血液型が1件、不規則抗体が75件(単一抗体65件、複数抗体10件)、血液型不適合腎移植が79件であった。特殊な血液型はAB型であり、不規則抗体の中には高頻度抗原に対する抗体である抗Jraも含まれていた。カードの配布状況は75%(116/155件)であり、その内訳は不規則抗体が42件、血液型不適合腎移植が74件であった。また、輸血検査に影響する薬剤投与患者への配布は0件であった。

【考察と課題】カードを配布できなかった原因として、検

査からカード発行までの間に患者が転院・退院したことが挙げられた。高度急性期医療を提供する当院は患者の在院日数が短く、カードの配布率が75%に留まっているため、迅速なカード発行及び配布が必要と考えられる。また、輸血検査に影響する代表薬剤の抗CD38モノクローナル抗体製剤投与患者へのカードは、薬剤部との連携が不十分であり、配布できていない。今後は複数回投与する患者への配布手順も含めて検討が必要である。当院はこれまで100名以上にカードの配布を行っているが、他院で配布されたカードが当院で提示された症例は0件である。熊本県及び隣県でカードを配布している施設は少なく、多くの施設がカードを発行することでより安全かつ迅速な輸血療法に繋がるため、カード配布の推進が必要である。

【まとめ】カードの現状と課題について調査した。カードがより輸血療法の一助となるよう努力していきたい。

連絡先：096-384-2111